



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-5550-7006

担当者の所属・氏名 放射線腫瘍科 石倉 聡

【研究責任者】

聖路加国際病院 放射線腫瘍科 石倉 聡

当院で乳がんの乳房温存手術後の放射線治療を受けられた方 を対象とした効果と安全性に関する研究

1.研究の対象

2024年7月～2025年1月に当院で乳がんの乳房温存手術後の放射線治療を受けられた方

2.研究の目的・方法

現在、乳がんの乳房温存手術後には再発予防の目的で、温存した乳房への放射線治療が行われています。放射線治療では従来、温存乳房全体を照射することが一般的でしたが、最近では一定の条件を満たした場合には温存乳房全体ではなく、腫瘍が存在した部位の近傍に限局した照射（乳房部分照射）により同等の効果が得られ、副作用は軽減することが大規模な比較試験により示されています。

また、全乳房照射では平日毎日の治療で16回（治療期間：22日）が必要ですが、乳房部分照射では平日1日おきの治療で5回（治療期間：11日、加速乳房部分照射）も可能で、通院負担の大幅な軽減が可能となっています。

欧米ではこれらの結果を踏まえて加速乳房部分照射は標準治療のひとつとして推奨されていますが、現時点の国内のガイドラインでは選択可能な方法として記載されるにとどまっており、国内で積極的に実施している医療機関は限られています。

今回、当院で乳がんの乳房温存手術後の放射線治療、特に加速乳房部分照射の実施状況および予後について調査することで、加速乳房部分照射の効果と安全性を評価し、今後標準治療として確立、普及することを目的としております。なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長による実施許可後～2029年3月31日までの予定です。該当のデータの利用開始は、2025年2月1日を予定しております。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

病歴、放射線治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号、年齢 等